

(別添 3)

【明日香村】
校務 DX 計画

従来の考え方「境界型(学習系・校務系・校務外部系を分離する考え方)では、校務系と学習系端末を分けて使わなければならない、また、職員室は校務系、教室は学習系などといった場所に縛られる働き方となってしまう。

これからは、校務系システムを閉域網で運用するのではなく、ゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、校務系・学習系ネットワークを統合することを目指します。校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一台化を組み合わせることで、端末や場所に依存せずアクセスすることができるよう整備し、学校内のみでなく、学校外、例えば感染症対策や育児・介護などで在宅勤務が必要な場合など、様々な働き方を実現することを検討します。校務支援システムのクラウド化により、大地震等大規模災害等が起きた場合にも業務の継続性を確保することが可能になります。

校務系・学習系システムを円滑に接続させることでは、それぞれのデータを低コスト・リアルタイムで連携し、各種データをダッシュボード機能により統合的に可視化し、学校経営・学習指導・教育政策の高度化を図ることが可能になります。また、教職員間や保護者との連絡手段のオンライン化、ペーパーレス化や採点業務や集計業務の時間が短縮するなど、これまでアナログ作業で発生していた余分な負荷を取り除くことで教職員の負担を減らし、押印についても原則廃止に取り組みます。

次世代の校務システムにおいては、GIGA スクール構想により学校の ICT 環境の整備が進んだことから、校務における ICT 活用は取り組みやすいものと考えています。奈良県域学校教育 DX 推進連携協議会に参加し、今後も県下統一システムを導入していきます。ICT を活用して校務の効率化を図ることで、教職員の事務負担等を軽減し、児童生徒と向き合う時間を確保し、教職員の働き方改革を推進します。